

気まぐれ通信

2025-08-05

こんにちは！気まぐれ通信のページをご覧ください、ありがとうございます。
今回は、今年度から使用を開始した黒球付き温度計と、その活用方法について
ご紹介したいと思います。



今年は梅雨頃から非常に暑い日が続きました。

そこで、サポート隊活動に参加する際の熱中症予防のため、黒球付き温度計を導入しました。



☆黒球付き温度計とは・・・

こちらの写真にあるような、名前そのまま黒い球体の付いた温度計です。

黒い球の部分で温度、湿度、輻射熱を計測し、暑さ指数を表示してくれます。



☆暑さ指数とは

暑さ指数（WBGT: Wet-Bulb Globe Temperature）は、気温、湿度、輻射熱から測定される熱中症の危険度を表す指標です。
単に気温の高さだけでなく、湿度や日射の影響も加味して熱中症のリスクを評価します。



この夏のサポート隊活動では、下記の表にあるようにその日の暑さ指数に応じて活動内容を変更していくようにしています。

活動当日朝の「日の出庁舎」における熱さ指数	対 応
31以上	雨天プログラム又は同等の活動を実施
28以上31未満	除伐、大刈り、根払い、又は同等の日陰を確保できる作業を実施可
25以上28未満	下刈作業を実施可 (ただし、日陰を確保できる場所のみ)
25未満	下刈作業を実施可

夏場のサポート隊活動といえば、下刈りです。
ただ、この異常な暑さの中で行うには危険が伴うため、場合によっては日陰を確保できる環境での作業に切り替えるなど、活動を制限する必要があります。



☆具体的な流れ

活動日の朝8時半時点で、日の出庁舎での暑さ指数を計測する。

- 1) 熱さ指数31未満の場合、現地に向かい活動を行う。
- 2) 31を超えている場合は、現地での活動は行わない。
- 3) 現地にて活動開始後、常時黒球付センサーを確認し、熱さ指数が31を超えた場合は以下の対応をとる。

☆作業中に万が一暑さ指数が31以上となった場合、

10分経過しても減少がみられなければ、一旦作業を中断し、5分間の休息をとり、その後暑さ指数が31を下回るまでは10分作業、5分休憩を繰り返す。

☆ただし、暑さ指数が32を超えた場合は、その日の作業を中止する



暑さ指数の計測結果によっては、活動を中止することも十分にあり得ます。
雨天時のようなプログラムを行ったり、一旦活動地で作業を開始していても中止にして日の出庁舎に戻ることも考えられます。

活動を楽しみに参加されたメンバーの皆さんには申し訳ありませんが、
熱中症を予防して安全に活動するための対応ですので、ご了承いただければと思います。

☆編集後記

気まぐれ通信復活2回目にして、文字ばかりで面白くない回になってしまいました。
ただ、猛暑での活動を安全に行うために知っておいていただきたいことですので、
どうかご理解をお願いいたします。

また、非常に暑い日が続きますので活動当日に体調のすぐれない方、
前日にお酒を飲み過ぎた方は、無理をせず活動を休んでください。

